

令和5年度 学校自己評価表（報告）

学校運営計画

学校運営方針		<ul style="list-style-type: none"> ・真理を追究し、誠実にして正義に燃え、強固な意志と実行力を有する人格を培う。 ・健全にして明朗、常に勤労と責任を重んじ、自主独立の精神を養う。 				
昨年度の成果と課題		令和5年度の重点目標		具体的目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育において、体験学習の増加を望む生徒の声が多かった。地域の医療機関や企業等と連携した事業の更なる充実を目指す。 ・就職達成率は100%であった。進路意識の早期の啓発を目指し、指導体制を工夫する。 ・学習習慣の定着に向け、教科や学年が連携した指導体制を構築するとともに、ICTを活用した効果的な授業を一層推進する。 ・いじめの見逃しゼロに向けスクールカウンセラーや専門機関、家庭との連携を強化し、組織的な生徒指導体制の更なる充実を図る。 	①郷土を愛する心と、豊かな感受性を持ち、責任感、正義感のある生徒を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・個性の伸長と自主性の育成 ・規範意識と公共心の涵養 ・基本的生活習慣の確立 ・地域の医療機関との連携 ・成果の発表と情報の公開 			
	②学ぶ意欲を育み、進路実現ができる確かな学力の定着を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・早期からの進路意識の醸成 ・学習習慣の定着 ・基礎学力の定着 ・生徒にわかりやすい指導方法の研究・工夫 ・ICTを活用した授業の推進。 			
	③部活動や特別活動を通して、健康な心身を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動の両立を図る ・学校行事の充実 			
	④教職員が業務内容の精選等を行い、勤務時間の削減に向けて意識改革が進むよう働き方改革に係る校内での取組を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日、定時退校日の設定 ・週休日の登庁簿の活用 ・タイムカードシステムを使用した勤務時間の管理 ・部活動の休養日の設定 			
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価		
①	国語	基礎学力の定着と向上	常用漢字の習得を徹底し、語彙力の向上を図る。	B	A	
			基礎学力の定着へ向けた授業の工夫を行う。	A		A
			ICTを効果的に活用した授業を考える。	A		A
	地公	基礎学力の定着	幅広い学力の生徒に対応するために、基礎学力の定着と進学に必要な受験科目に対応した教科指導を実践する。	B	B	B
			授業と補習を通して自宅学習の習慣化を粘り強く指導する。	B		
	数学	自習時間の解消 基礎学力の定着	授業振替や代講授業を徹底する。	B	A	A
			幅広い学力の生徒に対応するために、基礎学力の定着と進学に必要な科目に対応した教科指導を実践する。また、放課後や夏休み補習を通して進学に必要な学力を身につけさせる。	A		
	② ③	理科	指導方法の研究と工夫	電子黒板やタブレット等の有効な活用方法を検討し、実践することで授業の質を高める。	A	B
				幅広い学力の生徒に対応するために、基礎学力の定着を目指す。	A	
			基礎学力の向上と定着	2年生は、2月のマーク模試での結果を利用し、学習の定着度を確認し、学力向上につなげる。 3年生は平時の授業に加え、放課後や夏休み補習を通して進学に必要な学力を身につけさせる。	B B	
	外国語	英語4技能の向上 基礎学力の定着	GTEC受験を通して、英語4技能の向上を図る。	A	A	A
			英単語等の小テストを通じて、家庭学習の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。	B		
保健体育	体力向上の推進とその資質・能力の育成	体力テストについて、全国平均より劣る体力要素に関する補強運動を改善し、さらなる基礎体力の向上を図る。	A	A		
		各授業内容に応じた補強運動などを効果的に取り入れ、総合的な体力の向上を図る。	A			
		校内マラソン大会に向け、持久走を行う。全身持久力の向上を図り、大会での平均タイム男子47分以内、女子40分以内を達成する。	A			
	社会人として必要な礼儀・マナー・社会性の育成	A	A			
芸術	芸術・文化的活動の推進と内容の充実	創作、表現、鑑賞をとおして、生涯にわたって芸術を愛好する心を育成する。	B	A	A	
			A			
家庭	生活に関する基礎的な知識と技術を習得する 男女が協力して生活を創造する力を育てる	10分の5以上を実験・実習に配当し、実践的・体験的な学習を通して習得させる。	A	A	A	
		実践的、体験的学習を取り入れ、男女が協力して生活を創造していける能力と態度を養う。	A			

①	一学年	基本的な生活習慣を身に付けさせる	時間を守ることの大切さを指導し、今できる最善な生活パターンを作ることで、よりよい生活習慣を身に付けさせる。 目的意識を持った生活を送るよう指導する。 挨拶を励行し、社会人としてのマナー・モラルを育成するよう指導する。	A	A	B
		家庭学習の習慣づけ	学習課題、その他諸提出物の確実な提出を促し、家庭学習時間の確保に努める。 教科と連携し、必要な家庭学習時間を確保させる。	A	B	
②	二学年	自分の進路を具体化する	自分の将来について具体的な目標を立てさせる。 語彙力・読解力を向上し、社会課題への理解を深める学習を行う。 的確に読み取る読解力、表現するための語彙力を向上し、社会課題への理解を深める学習を行う。	A	A	A
		家庭学習の定着	教科と連携し、家庭学習時間を確保させるように指導する。	B	B	
③	三学年	規範意識の涵養	「成人」となる自覚を持たせ、正しい身だしなみや言動をとれるよう指導する。 正しい情報モラルを身に付けるよう指導する。	B	B	B
		進路実現へ向けての学力向上	進路実現に向けた学習習慣の定着、家庭学習時間の向上をうながす。 進路実現に向けての意識を向上させ、早めの取り組みをうながす。	A	A	
①	教務	基礎学力の向上と充実	学びの質を高める授業改善に取り組む。 家庭学習の習慣化に全校で取り組み、成績不振者を減少させる。	A	B	A
		特別活動の確保と精選	特別活動の意義を踏まえ、年間行事計画の中にホームルーム活動・生徒会活動・学校行事をバランスよく確保する。	A	B	
②	学校公開の推進と研修の充実	読書習慣の向上と環境の充実	対外的な公開授業及び校内的な授業公開を実施し、中学校との連携を持ちつつ、指導方法の研究・改善に努める。 生徒や教科等のための図書を充実させ、図書館の環境整備を図るとともに読書習慣や利用の啓発を推進する。	B	B	A
		情報機器の活用	ICTの活用をさらに進める。	A	A	
①	進路指導	希望する進路の実現	希望する大学の入試に対応できるよう、基礎学力向上に向けた対策と生徒の意識改革を図る。 希望する民間企業、公務員に合格するよう、生徒の意識を高め、面接や試験の対策を行う。 生徒が利用しやすいように進路資料室の環境を整える。	A	A	A
		進路情報の充実	進路情報・模試データを進路実現に向けて、積極的に活用する。 生徒が利用しやすいように進路資料室の環境を整える。	A	A	
②	生活指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を身につけさせ、社会規範を遵守する態度を養わせる。 服装・頭髪指導を実施し、端正で清楚な身だしなみを身に付けさせる。 特別指導、欠席・遅刻・早退及び携帯電話の不正使用などの件数を減らす。	B	B	A
		交通安全の徹底	交通ルールを遵守させ、事故・違反を減らす。	A	B	
③	保健指導	自主的な健康管理の育成	健康講話や保健指導、健康相談等で心身の健康への意識向上を図る。 健康診断等を通じ自主的に心身の健康管理のできる生徒を育成する。	A	A	A
		学習環境の清潔さの保持と公共心の育成	全職員が監督場所で清掃指導にあたる。 月一回の大清掃を実施する。	A	A	
③	生徒会指導	学校行事の活性化	生徒主体の生徒会行事運営・いじめ防止活動を検討・実施する。	A	A	A
		部活動の活性化	部活動を継続的に進められるよう環境等を整備する。	A	A	
地域・家庭と連携	P T A行事の開催	各種委員会や総会に際し、P T A会員への案内を徹底し、出席率の向上を目指す。	A	A	A	
「医療専攻」の充実	課題解決能力の育成	病院見学や病院実習などを通して、課題を立て、主体的・協働的に整理・分析し、発表することができるよう指導する。	A	A	A	
	地域の医療機関との連携	地域の医療機関と連携し、魚沼地区の医療について深く学び、将来、地元貢献する医療従事者になるための態度を育成する。	A	A		
	成果の発表と情報の公開	「医療専攻」たよりの発行、ホームページへの掲載、医療専攻発表会の開催により学習の成果を公開する。	A	A	A	

④	働き方改革に係る 校内の取組	学校閉庁日と定時退庁日を年間計画に設定をし、その遵守を促す。	B	B	A
		部活動の活動方針に従い、各部活動の休養日を年間100日以上とする。	A	A	
		タイムカードシステムや週休日の登庁簿が適切に運用されている。	A		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用タブレット端末等 I C T を積極的に活用し、分かる授業や主体的な学びの実現に努めた。 ・きめ細やかな進路指導で、進学・就職ともに生徒の進路実現を達成することができた。 ・日頃から生徒についての情報共有を行い、きめ細やかな支援・指導を行った。 	総合評価			
			A		